

# 東成区の昭和・思い出ほろほろメモ



## サバイバル

日本画家の父は、長屋の四畳半の自室で早朝に起き、玉露を飲み、絵を描き、夕食前に手酌で一合の日本酒を楽しむ人だった。

僕は将来マンガ家になると決めていたが、父から「マンガ家なんか！」と非難めいた小言を言われたことがない。絵筆1本で家族を養わねばならないと考える父は（実際は母が働きに出て家計を助けていた）、生活のための商品絵を“パン絵”と呼び、展覧会へ出品する出品画と区別していた。

出品画は大作（300号）で、絵の具・銀箔・金箔など材料費がバカにならない。

制作中は“パン絵”を休むので、結局母の稼ぎが頼りだつた。

父は戦後10年間、ベビーブーム世代の子供が使うラン

絵と文 白鳳短期大学非常勤講師（マンガ家）柳たかを

ドセル・筆箱など学用品にイラストを描く内職をした。忙しくて手伝いを数人雇うほどだったが、大量の商品に同じ絵を延々と描き続ける単調な仕事は父には無理だったようだ。

悩んだ末に画家復帰を賭け、所属団体（青龍社）の戦後第一回展に出す300号を制作し始めた昭和33年春、9歳の僕が大病で寝込んでしまった。

生活と作品制作、そして大病する子供、幸い展覧会には入選でき、僕も高価なペニシリルのおかげで命拾いした。こうしたいともがけるあいだは、恰好わるくても少しずつ前進できる。

もがき続ければ道は徐々に開けていくのではないだろうか。そんな思いでいた時期に描いたのが今回の連載です。

# やる気日記

## New! 東成区の昭和(29)



# ヤスヒロ日記

## New! 東成区の昭和(30)



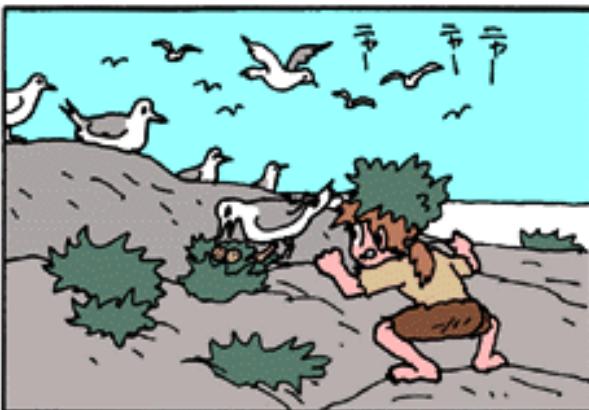
# やぶ日記

New! 東成区の昭和(31)



# やぶ日記

New! 東成区の昭和(32)



# やあみ日記

New! 東成区の昭和(33)



# やあみ日記

New! 東成区の昭和(34)



# やぶ日記

New! 東成区の昭和(35)



# やぶ日記

New! 東成区の昭和(36)



# ヤスヒロ日記

## New! 東成区の昭和(37)



# やる気日記

## New! 東成区の昭和(38)



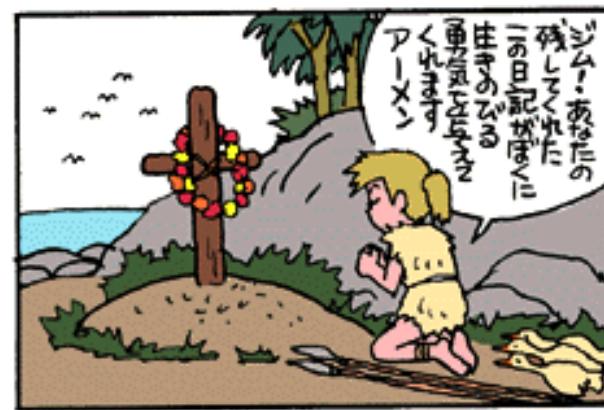
# やあ日記

New! 東成区の昭和(39)



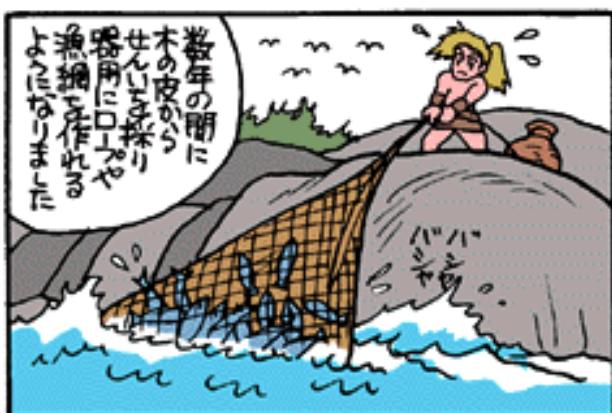
# やあ日記

東成区の昭和(40)



# やる気自記

東成区の昭和(41)



# ヤスの日記

東成区の昭和(42)

